

# 三次イノベーションだより

## 第14回みよし産学官連携セミナーを開催 ～県立広島大学との連携成果を発表～

「第14回みよし産学官連携セミナー」を、平成26年2月20日に三次グランドホテルで開催し、約50人の参加がありました。

セミナーでは、県立広島大学の有する知識や研究成果の紹介のほか、平成24年度に採択した「産学官連携推進支援事業」の成果発表を行いました。セミナー終了後は、大学関係者や事業者相互の名刺交換、情報交換により交流を深めました。



### 県立広島大学の地域連携

西村和之庄原地域連携センター長から、「地域の疑問に答える機能が大学にはある。何を求めるかを明確にしたうえで、大学をしっかりと活用してほしい」と、大学の地域連携センターの役割や活用方法について情報提供がありました。

### インドとの交流事業の成果

生命環境学部の甲村浩之先生と生命システム科学専攻の大地有城さんからは、「インド経済交流訪問団」としてインド・ハイデラバード市を訪問した成果について報告がありました。

現地では、種苗会社や農業大学などを訪問したほか、流通現場などを視察。栽培様式や遺伝子組み替えに対する考え方など、2国間の違いが分かり、今後の交流においてはポイントとなりそうです。

県立広島大学では、インド側の大学との間で園芸技術や学生の交流について検討しています。

### 果樹園（ブドウ）土壌解析および栽培技術の改善 農事組合法人三良坂ピオーネ生産組合



pH 値の高い水を灌水することによるブドウへの影響とその対策について研究が進められました。

高 pH の原因については今回解明されなかったものの、pH を下げるための栽培方法の変更や高 pH による欠乏症状の確認と元素補給など、対応策が示されました。

※当日の発表は、共同研究を行った県立広島大学生命環境学部の藤田景子先生にいただきました。

### 三次の特産を利用した新商品開発 株式会社広島三次ワイナリー



ワイン造りの工程で発生するぶどうの発酵残渣を乾燥粉末にし、サプリメント用タブレットの開発に取り組みました。

研究の結果、粉末にはポリフェノールの成分が期待するほど含まれていなかったものの、食物繊維の不足分の一部を補う効果は期待できることが分かりました。商品化に向けて、いかに訴求力を高めていくかが今後の課題となりそうです。

### 規格外アスパラガスを活用した「アスパラパウダー」商品開発プロジェクト NPO法人地域活性化プロジェクトチームGANBO



アスパラガスの葉や規格外品を活用した「アスパラパウダー」で商品開発を進めるための研究に取り組みました。

分析の結果、葉には抗酸化作用のある「ルチン」がそばの115倍含まれていることが判明しました。ルチン含有量が多くパウダーの活用用途も広いと考えられるため、今後は色鮮やかなアスパラガスを強調できる食品の開発が進められます。

# 何でもサロン



～ビジネスにつながるヒントに～

毎回違ったテーマにより、参加者の疑問や知りたい情報などを共有することで、ビジネスにつながるヒントを探る自由な意見交換の場です。



## 食品中の機能性成分の探索



生命環境学部生命科学科の田井章博先生を囲み、平成25年10月31日に開催しました。

先生は、食材に含まれる機能性成分や持続性抗酸化物質を取り出し、健康維持に貢献する食品、化粧品素材の開発に関する研究

をされています。地元の食文化が「健康食材」に化ける可能性もあることから、「良いネタがあれば研究に使いたい」と先生から情報提供を求める場面もありました。

参加者は、それぞれが取り扱っている食材や食品の紹介を行い、それを活かした新たな商品開発のアイデアや悩みなどについて意見交換を行いました。

## 今のままでいいのか地域活性化～変わる三次～

生命環境学部環境科学科の前川俊清先生を囲み、平成25年12月3日に開催しました。

都市計画や道路交通網を踏まえたヒトの動きや消費に与える影響などを解説していただきました。

商売では「お客様がどういった経路でお店にきたのか」を分析することが大変重要とのこと。来年には尾道松江線が全線開通し、ヒト・モノの流れが大きく変わ

ると予想されますので、その変化を的確にとらえる必要があります。

参加者からは、お客様の動向を調査し今後の対応を検討していることやイベントで人を動かす上での苦労話など、さまざまな意見が出されました。



## エビとカツオ節から考える地産地消



経営情報学部経営学科の和田崇先生を囲み、平成26年1月28日に開催しました。

参加者から発言のあった「三次唐麺焼」や「映画」がキーワードとなり、「地域活性化」や「ブランド化」のあり方などについて活発な

意見交換が行われました。

先生からは、地域の宝が地域ブランドとして認知されていくには、文化・背景・ストーリーといった「ぶれないもの」が必要であること、「地域活性化」や「まちづくり」は魔法の言葉で、言葉におどらされず、根本にある「何がしたいか」「何を求めているか」が重要になることなど、わかりやすく解説していただきました。

## 前川俊清先生が退職 ～設立当初から運営にご尽力～



平成16年の三次イノベーション会議設立当初から運営に関わりご尽力いただいた生命環境学部の前川俊清先生が、平成26年3月末をもって退職されます。前川先生は、「平成元年4月1日の『広島県立大学』赴任から25年、地域の人々の視座と言葉にどこまで近づくことができたか…、そしてそれを学生や同僚と正しく共有できたか…」とこれまでを振り返られ、ご自身の今後や県北地域について「これからもこれまでと同じ姿勢を保ち続けたく、ますます興味深い地域です」と語られました。

前川先生の今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

# 産学官連携推進支援事業

～事業者と大学の共同研究を支援～



市内事業者のニーズと県立広島大学の有する知識や研究機能をマッチングさせ、経営課題の解決や新技術の開発、新規事業の創出などの取組を支援する「産学官連携推進支援事業」として、3件の事業を採択しました。

事業者と大学との間で約1年をかけて連携事業に取り組みます。どのような成果が得られるか、来年度の成果発表が大変楽しみです。

採択事業者及び事業内容は次のとおりです。

## アスパラパウダーを活用した商品開発及び販売促進

NPO法人地域活性化プロジェクトチームGANBO

昨年度の連携事業に引き続いての採択となります。「アスパラパウダー」の成分分析により、パウダーが持つ可能性の高さが確認されましたので、今回はパウダーの付加価値を高めるための手法を研究し、消費者ニーズに合う商品の開発や販路拡大、販路開拓をめざします。

## 口腔機能向上リハビリ用品「吹き戻し」レベル0の性能検証 株式会社ルピナス

同社が販売する「吹き戻し」は、口腔機能向上のリハビリ用品として認知され普及が進んでいます。新たな負荷レベルの商品を開発したことから、商品の信頼性と価値を確立するための科学的根拠を取得し、既存商品とのセット販売による更なる普及と市場への早期浸透をめざします。

## 「ちしゃとう」を使った商品開発と販路開拓

大津建設株式会社

同社では、作木町にある耕作放棄地を活用して中国原産の「ちしゃとう」を栽培し、新たな特産品の開発を手掛けています。今回は、ちしゃとうを加工してできた商品について成分分析を行い、加工することによる分量の変化を検証し、今後の販売や販路拡大につなげます。

## ビジネスフェア、(株)白鳳堂を視察

平成25年11月20日、15名の参加によりビジネスフェア視察と企業視察を行いました。



一行はまず、広島市中区の広島グリーンアリーナで開催された「第8回広島県信用金庫合同ビジネスフェア2013」を視察しました。県内企業・大学・機関から330の出展があり、三次市からも11事業所が出展しました。

試食を交えた商品PRや商談など、どのブースも活気に溢れていました。



ビジネスフェア視察後は、企業視察として安芸郡熊野町にある株式会社白鳳堂を訪問しました。

白鳳堂は、伝統的毛筆製造技術を応用した化粧筆を製造しています。「白鳳堂ブランド」として世界的に有名で、世界シェアの約6割を占める、ナンバーワンブランドです。

製造工程のほとんどが手作りで、すべて国内生

産することにより付加価値を高めています。

三次工業団地への工場立地が決まり、平成26年11月に操業予定です。将来的には約200人の雇用が見込まれており、地域の活性化や雇用創出の面で大変期待されます。



# 県立広島大学教員紹介



いちむら たくみ  
市村 匠 准教授  
経営情報学部経営情報学科  
専門分野： 知能情報学，  
Web インテリジェンス，  
感情指向型インタフェース

県立広島大学経営情報学科では、先進の ICT を駆使したトータルソリューションで、私たちの生活をよりよい暮らしにするための教育研究を行っています。ICT は Information and Communication Technology の略で、IT より広い意味で、情報・通信に関連する技術一般の総称です。

私は「計算知能」と呼ばれる分野の研究を行っており、人間のように柔軟に思考し行動できる知能システムを開発しています。これらの研究には、学習や進化、適応などの要素を駆使して知的なプログラムを開発することも含まれています。

研究開発した成果を私たちの生活に生かすた

めに、過去には医療データを用いた診断支援システム、生活習慣病予備群のための生活習慣改善システムなどの医療支援システムの応用研究を行ってまいりました。最近では、スマートフォンやスマートタブレットを用いて、「ひろしま観光マップ」や「IC カードによる出席管理システム」などを開発しています。「ひろしま観光マップ」はスマートフォンにより、旅行者が観光地で撮影した写真や感想、評価などのデータをクラウドシステムで収集します。収集されたデータはビッグデータとして分析され、魅力ある観光地・新規性のある観光地を自動で発見することができます。一方、「出席管理システム」は、既存の交通系 IC カードや電子マネーカードをそのままスマートタブレットにタッチするだけで出席をとることができ、専用機器よりも安価に導入できるメリットがあります。今後も最先端の技術開発を分かりやすい形で提案していきたいと考えています。

## 人材育成に関するアンケート調査を実施

産学官連携に関する企業ニーズを探るため、「人材育成」に関するアンケート調査を行いました。

調査の対象は、「三次商工会議所又は三次広域商工会の会員で、三次市に本店を有する従業員 5 人以上の事業所」で、対象となる 411 事業所にアンケートを郵送し、72 事業所から回答を得ました。

このうち、「県立広島大学による従業員対象の研修」については、41 事業所が「研修させたい」と回答。「県立広島大学に期待すること」（複数回答可）との設問では、「現在のスタッフの再教育」が 31 事業所で最も多く、「優秀な卒業生の供給」が 21 事業所、「管理職の教育」が 15 事業所と続きました。その他、自由記入として人材確保に関する課題や県立広島大学への希望なども多く寄せていただきました。アンケートにご協力いただいた事業所の皆様、ありがとうございました。

今回のアンケート調査の結果を分析し、今後の新たな事業の展開につなげていきます。

### 三次イノベーション会議

産業界、大学及び行政の連携により、大学の有する研究成果、機能等を活用し、これまでのモノ、仕組みなどに全く新しい技術や考え方を取り入れ、新たな価値を生み出し、地域社会に貢献することをめざします。

#### 産学官連携に関する相談、問合せ先

##### 三次市産業部商工振興課（事務局）

Tel: (0824) 62-6171 Fax: (0824) 64-0172  
E-mail: shoukou@city.miyoshi.hiroshima.jp

##### 県立広島大学庄原地域連携センター

Tel: (0824) 74-1704 Fax: (0824) 74-0191  
E-mail: gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp

2014年3月発行

編集発行：三次イノベーション会議

（事務局：三次市産業部商工振興課）

##### 三次商工会議所

Tel: (0824) 62-3125 Fax: (0824) 63-5200  
E-mail: info@miyoshi-cci.or.jp

##### 三次広域商工会

Tel: (0824) 44-3141 Fax: (0824) 44-3390  
E-mail: miyoshi@hint.or.jp